



このくちづけをみつめて
MHA unofficial fanbook No.12
presented by Limbo.

MHA

KtDk

R18

プロヒ設定の勝デクです。

冒頭2021/11月現在コミックスになっていない

原作シーンのネタが含まれています。

その部分は読まなくても全体の内容はわかるようになっていきますので、

ネタバレに敏感な方はこのページを1ページ目として数えて

6ページ目以降の飛んでるプロヒかっちゃんの所からお読みください。

(本文3枚摘まんで開いたあたりです)

ツイッターなどでも散々話題になったワンシーンのところだけなので

ネタバレ全然気にしないよ！という方、本誌リアタイの方はそのままお読みください！

少しでも楽しんで頂ければ幸いです！

原作の最大手振りに唸りながらもあの眩しい2人は高校生のうちは眩しいままそれぞれ自身の感情をはっきり形にさせられないままプロヒになってから距離が近くなるきっかけ一つで自覚していく二人もいいな～プロヒになってから自覚して手探りになってたらかわいいな～～～と妄想しました…
形に出来て良かったです…

雄英在学中からかっちゃんがぼっち自覚してデクを囲う方向に覚醒する感じの勝デクも大好きです！

このくちづけをみつめて
2021/11/28発行 りんば(著:ひとみ)
pixivID: 2351733
twitterID: HTMjackdaniels
mail: info@anet.zombie.jp
print: STARBOOKS 様

この冊子は個人の趣味で作成した非公式二次創作物です。
実際の人物・団体・創作元公式様との関係は一切ありません。
本作を上記の旨を把握していない方の目に留まる可能性の高い、
ネット・共有サーバへのアップロード転載、コピー・ネットでの複製頒布、
オークションへの出品行為を固く禁じます。

thankyou for reading!
Unauthorized copying and replication of the contents of this my work are strictly prohibited.
So sad if my work is reprinted.
I would like to request the unauthorized copying person to delete If you find an illegal copy of my work.
All rights reserved!

わーってる



うっ

うう…



その瞬間



これだ、って
いう感覚



失くして焦って
欲しくて仕方が
なかったものが

手元に戻って
来た感覚

同時に

あと一歩で
答えが見つかる
って確信した感覚



けど

当時の俺には
その感情と

向き合う余裕も
深掘りする時間も
なく

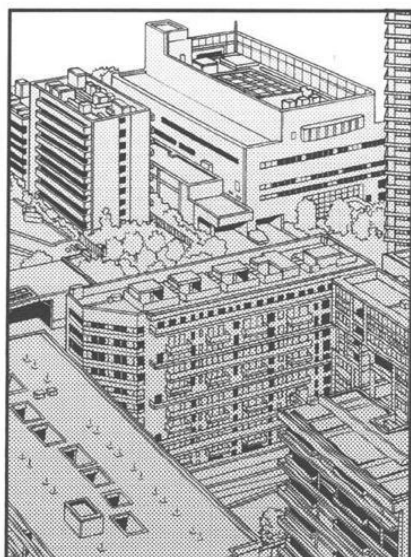
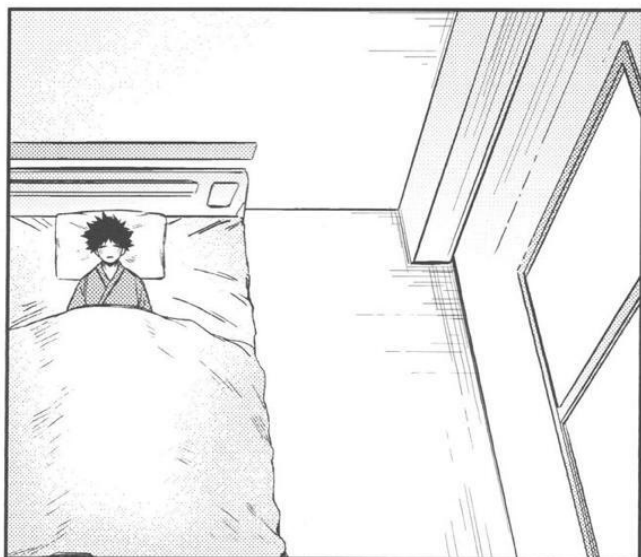
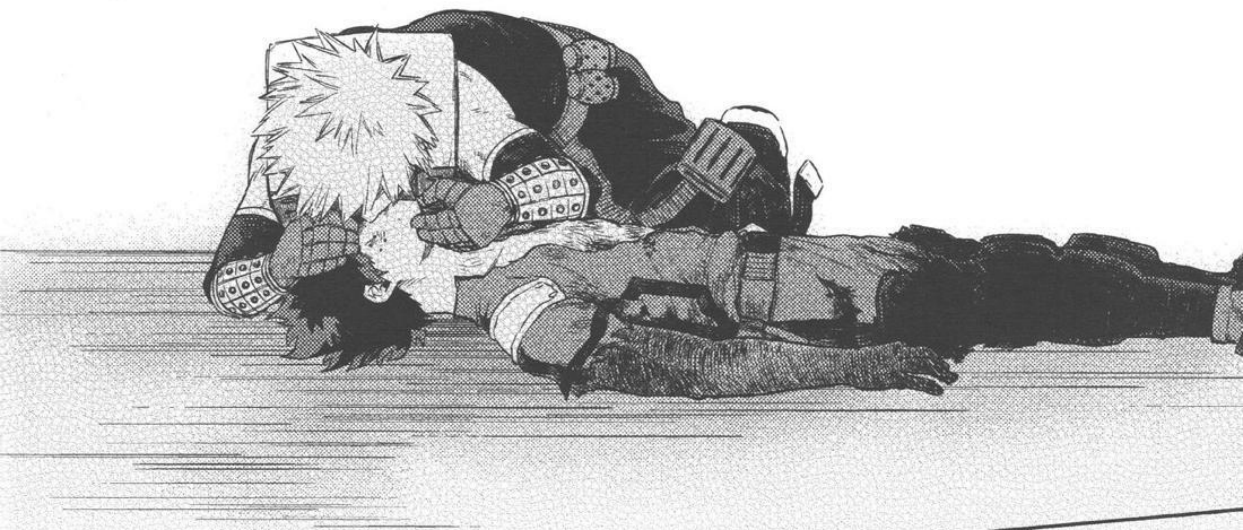
ただがむしやらに
目の前の事に
食らい続けて
いくうちに

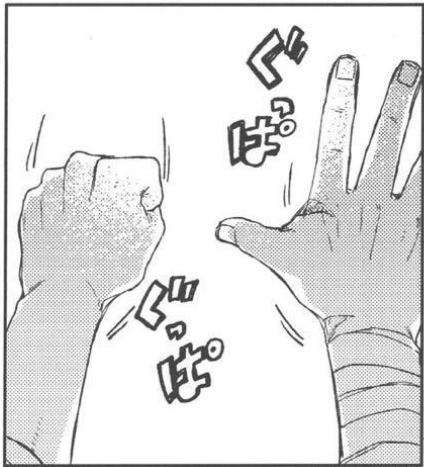
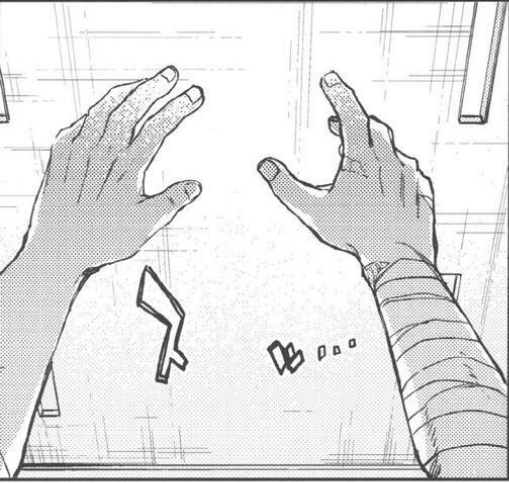
向き合う事無く
心の奥の泥沼に
沈んで行った

数年後













うん

ごめん



俺の気が
変わんねえ内に
さっさと退院
しやがれ



オイ

何か食いたい
モンでもあるか



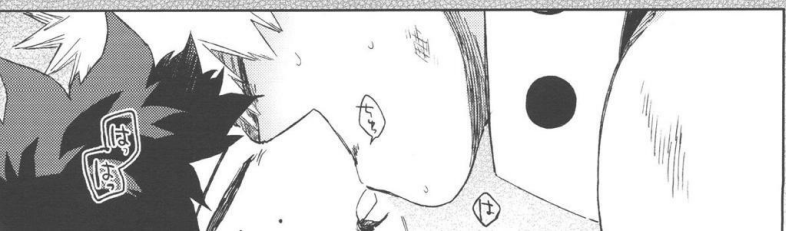
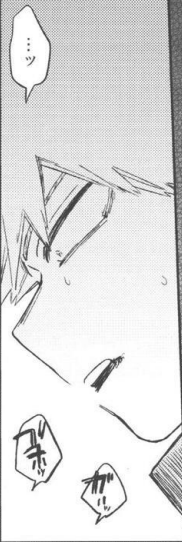


クン……ッ
クン……ッ



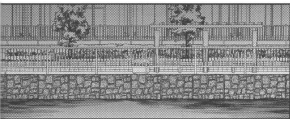
ほんやりと
だけど……

……テメエ
意識あつたんか









ずっと焦がれて
きたから

ぼくは

君の言葉をどう
受け止めたら
いいか分からないよ

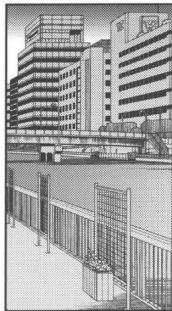
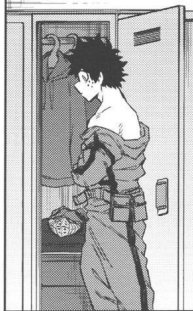
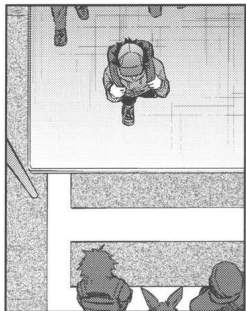
僕
かっちゃんの
ことが

好きなの
かな…

そりや憧れって
意味では間違い無く
好きだよ…



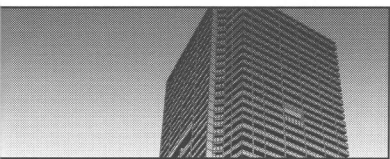
それ以上の
意味でも



珍しいね
かつちゃん
が
夜に僕の事
呼ぶなんて

基本テメエには
用が無エからな





おっ
おじやま
しまゝす…

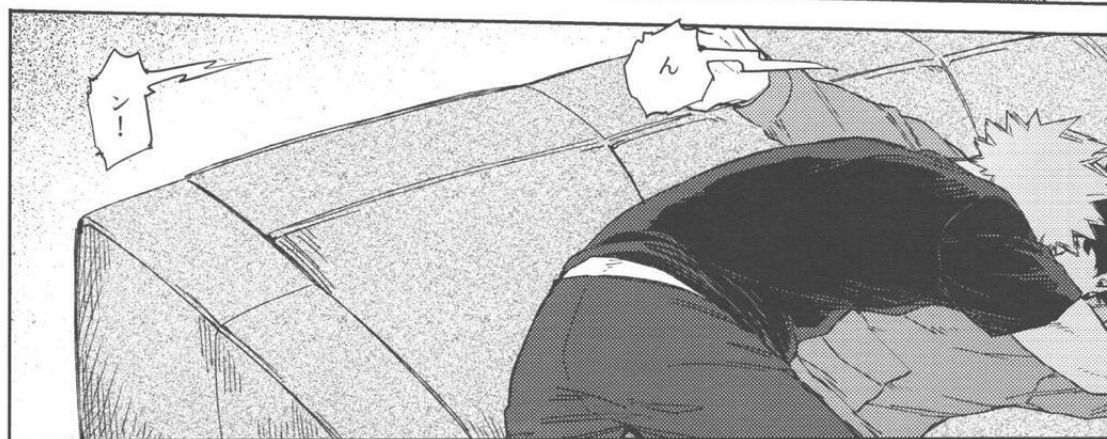
ソファ
座つとれ

荷物と帽子は
そこ置いとけ



試してえ
ことがある









この日から



かつちゃんに
呼ばれた日



僕たちに
誰にも言えない
妙な関係が
始まった





お互いの身体を
触り合うように
なった

誰にも絶対に
言えない
秘密だ



素肌を合わせると
もっと感度が
上がるのが
分かってからは

服を脱いで
重なり合った



まるで何かから
お互いを
慰め合うみたい
だと思った



何を慰め
合っているのか
分からないけど



君の心臓の
鼓動を聞くと

僕は
心地がいいんだ









ヤって欲しいのは
てめえの方じゃ
ねえのかよ

わかんねえ



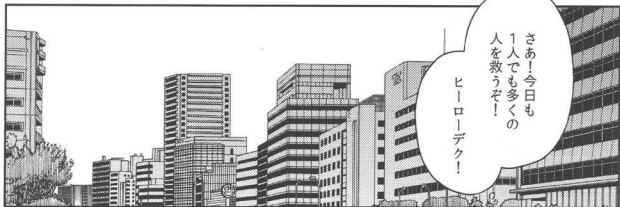
わかんないのは
僕だって
同じだよ



少し頭を冷やした
方がいいんだ

次の週

僕は初めて
かつちゃんの
誘いを断った

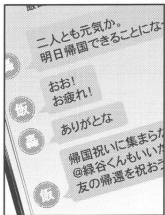


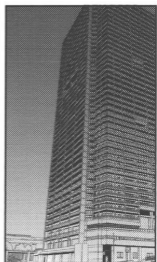
少し：
打撃が過剰じや
ないか？

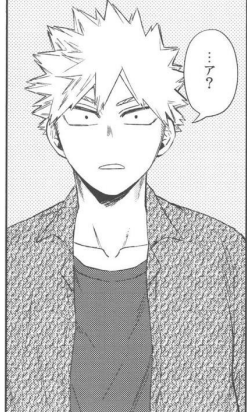


何か嫌な
事でも
あったのか？











とつとりあえず
近所迷惑だから
かつちゃん
入って……ッ

だよ
入れよ
爆豪

半分ヤロー
てめーが命令
出来る立場じゃ
ねーだろがッ



……
爆豪おまえ
何しに来たんだ？

俺ア
このクソデクに
話があんだよ

テメエはもう
祝って貰ったろが
さっさと退散しろや



テメーは
ちっと
黙っとれッ
クソがッ

何いってんだ
こっちは先客だぞ

前々から
予定合わせて
会ってるんだ
まだ帰りたくねえ

こっちだつて
用あつて来んだ
急用なんだよ
はよ帰れや



2時間で
用事済ますって

ここから
連れ出してって
ことか

緑谷の家に
俺たちを
置いて

そーだ
つつつてんだよ

てめえらは
追い出さねえ
俺から最大限の
譲歩してやってんだ

爆豪おまえ
さつきから
強引すぎるぞ

そもそも前々から
緑谷と爆豪見てて
思ってたんだけどよ…

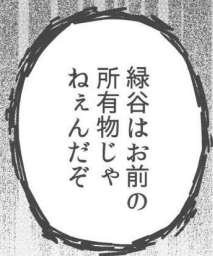
何だよそれ
爆豪も俺達と
一緒に飯食いながら
緑谷と話すれば
いいだろ

み…みんな
落ち着こ…

爆豪君
その言い方は
ないだろ！
そもそも
我々は先客
なんだぞ！

な…何なんだ
この状況…





緑谷はお前の
所有物じゃ
ねえんだぞ





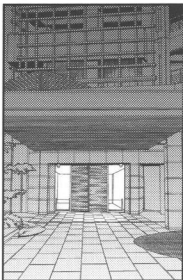
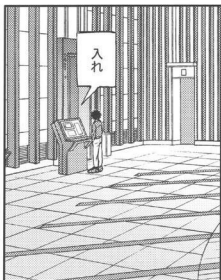
…俺だって
わかつとるわ…



…帰る

何で
僕は今
苦しいんだろう





今からかっちゃん家
行っていいですか

敬語キメエ

来るなら
はよろしや

ありがとう





















そういう
即断即決なところは

昔から
変わらないよね

MHA unofficial fanbook no,12
presented by Limbo.